

減少要因調査等について

1. 減少要因調査の実施について

(1) 南アルプス及び乗鞍岳における自動撮影カメラ調査

南アルプス（白根三山）およびキツネ等のライチョウの捕食者およびサルやシカの高山での生息状況を調べるため、自動撮影カメラ調査を実施した。調査の方法は、センサーカメラを設置することで、この地域に生息する動物を自動的に撮影し、その撮影状況から生息状況を明らかにする方法をとった。調査結果については現在とりまとめを行っている。

(2) 南アルプス国立公園ニホンジカ対策モニタリング調査について

環境省関東地方環境事務所にてニホンジカのモニタリングを目的に北岳、荒川岳および仙丈ヶ岳の3地点で平成23年度より自動撮影カメラ調査を実施している。当調査ではニホンジカ以外の動物も撮影されており、今回、そのデータの中から特にライチョウの捕食者となるキツネ及びテンについて平成27～28年のデータを整理した。今後、解析を進めることによりキツネ及びテンの生息情報として活用したいと考えている。結果は以下のとおり。

※平成28（2016）年データは暫定値



図1 自動撮影カメラ調査の実施箇所

表 1 平成 27～28 年のキツネ及びテンの撮影頭数（ライチョウは参考）

	設置地点	撮影頭数			地点数 (カメラ台数)	設置時期	設置期間
		キツネ	テン	ライチョウ			最小～最大(日)
平成27年 (2015)	北岳	10	8	0	5地点 (15台)	7～10月	最小88日間 最大91日間
	仙丈ヶ岳	2	0	15	3地点 (9台)		90 91
	荒川岳	3	1	7	3地点 (9台)		69 70
	設置地点	撮影頭数			地点数 (カメラ台数)	設置時期	設置期間
		キツネ	テン	ライチョウ			最小～最大(日)
平成28年 (2016)	北岳	13	2	1	5地点 (15台)	8～10月	77 80
	仙丈ヶ岳	6	0	4	3地点 (9台)		77 78
	荒川岳	5	0	0	3地点 (9台)		63 64

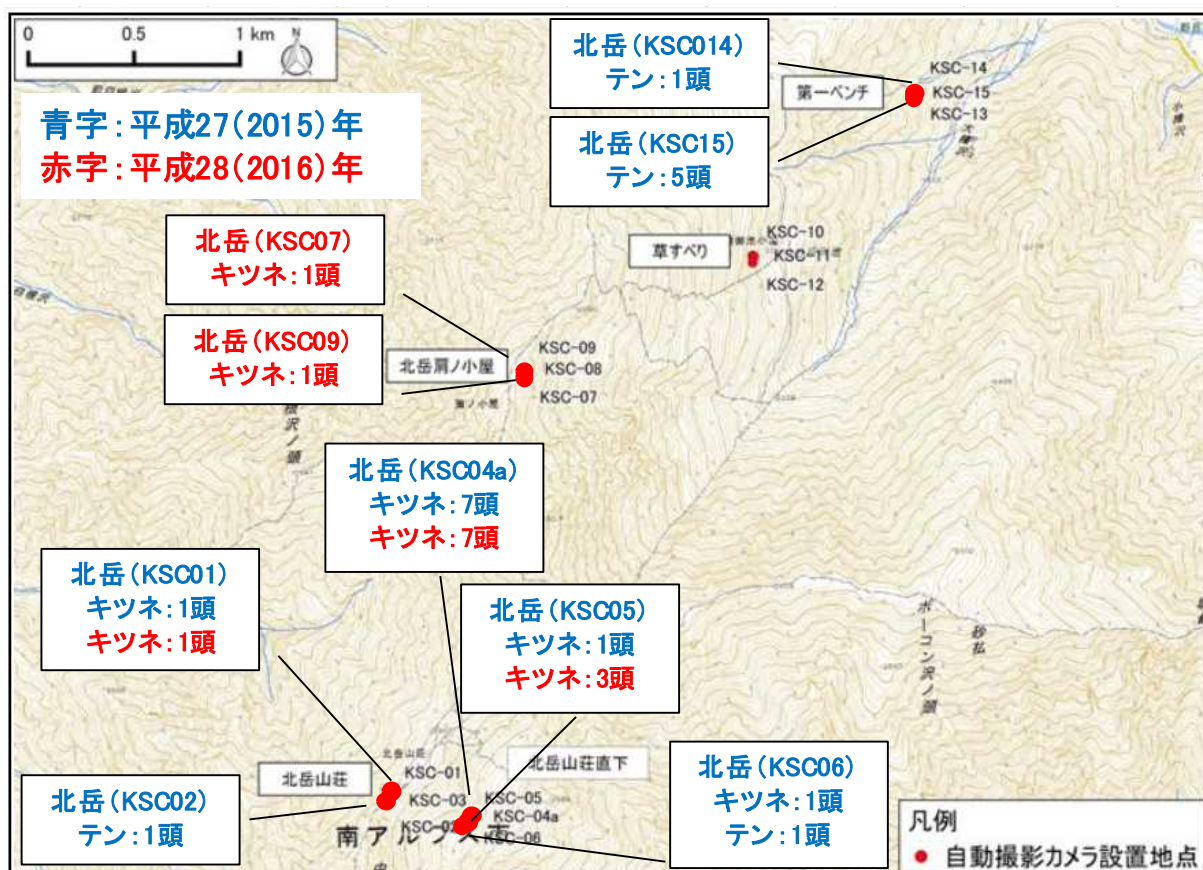


図 1 北岳における平成 27～28 年のキツネ及びテンの撮影場所
※当調査では個体識別不可のため同一個体が撮影されている可能性がある。

2. 乗鞍岳におけるカラス対策について

乗鞍岳において、ファウンダー確保事業と同時にセンサーカメラによる捕食者調査を実施したところ、6月に乗鞍岳においてカラスによるライチョウ卵の捕食が確認された。このため、乗鞍岳で10月下旬から11月上旬にかけてカラスの試験捕獲を試みた。



カラスによるライチョウ卵の捕食 (6/3)

(1) 目的

カラスの日本の山岳の高山帯（約2400m以上）への進出は1970年頃から確認され始め、乗鞍岳には1980年代以降2羽程度が高山帯で滞在するようになったことが記録されている（中村2006）。当地域も含めてカラスによる幼鳥の捕食などが数例確認されており、ライチョウの生息にとって新たな脅威となっている。

本事業では、ライチョウ保護増殖事業において重要項目である捕食者対策として、乗鞍岳において試験捕獲を含めた調査を実施し、ライチョウの生息地保全の基礎データとすることを目的とする。

(2) 実施状況

10月下旬に現地調査及びヒアリング調査から、当地域のカラスは乗鞍岳麓の三本滝周辺に常時滞在し、登山者・観光客の食べこぼし等を採餌し、観光バスが山頂方向上がると同時にバスに付いて山頂方向に上がるという動きがわかってきた。

また山頂部で誘因による試験捕獲を試みたが、風雪のため実施が困難となり、麓の三本滝駐車場周辺にて誘因調査を試みた。フクロウのデコイとカラスの警戒声を流す誘引方法については、高い確率でカラスが誘引され有効な方法であることがわかった。

今後は捕獲技術を確認することで試験捕獲を実施しカラスによるライチョウへの生息の影響を評価していくことが重要である。



三本滝周辺に誘因されたカラス



誘因に用いたフクロウのデコイ

3. 北アルプスにおけるニホンザル緊急追い払い事業（長野県）

事業地：北アルプス東天井岳（6月～9月）

- サルに発信機装着、追い払い実施
- 効果検証（次年度以降の対策へ）

平成27年8月25日、北アルプスでニホンザルによるライチョウの捕食が確認された。

平成28年度はハイマツの結実が少なく、ライチョウ生息地へのサル出没は僅少した。

